



内堀

うつぼり

ロマンと歴史あふるる
わたらの里めぐり



1 天照真良建雄神社

あまてらすますらたておじんじや

古くは杉戸神社と称していたが、明治4年(1871年)に現在の社名に変更している。祭神は天手力男神(あめのたちからおのかみ)、国常立神(くにのとこたちのかみ)、大国主神(おおくにぬしのかみ)、天鈿女神(あめのうずめのかみ)で、古くは神代垣内(かじろがわち)に鎮座していたのをいつのころか現在地に移した。明治の時代、このあたりはたたら製鉄で大変栄えており、社殿の彫刻も立派なものである。

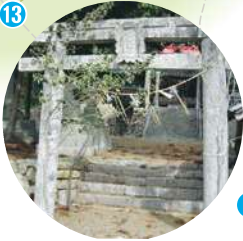
祭りは、10月19日夜に宮司宵祭を、20日に例祭、御幸祭を行っている。



木鼻

きはな

木鼻とは、木端ともあらわされるように「木の端」を意味している。複数の縦柱を横に貫いている柱(頭貫:かしらぬぎ)や虹梁(こうりょう)等の端に付けられた彫刻のことである。



2 世量荒神社

よはかりこうじんじや

お宮の横、真倉穂に上がりかけのところにある。瓶の中の状態によって作物の作柄や気候を占う。

3

金剛山 妙楽寺(曹洞宗)

こんごうざん みょうらくじ

名越山城守の娘が出家し妙観(みょうかん)と名乗り、金剛山に庵を建てたことが始まりで、元和元年(1615年)徳雲寺第8世天菴善俣(てんあんぜんしゆく)大和尚が村人の要請で曹洞宗寺院として再興し現在に至っている。このことにより開基を妙観禅尼(みょうかんぜんに)開山を天菴善俣(てんあんぜんしゆく)大和尚とし、本尊は阿弥陀如来である。境内のイチイの巨樹は、庄原市の天然記念物になっている。その左奥には1番札所のお大師さんの石仏もある。



5

清水舎の金屋子神社

しみずやかなやごんじや

昔、内堀はたらの盛んなところであり、数多くの金屋子神社が祀ってある。この清水舎の金屋子神社は、組の社として今も毎年、祭りが行われ、明治・大正の頃は神社前の田圃で大人や子どもの相撲があり、にぎやかだったという。

4

やぶ谷 お不動さん

やぶたに おふどうさん

田村縫子宅のそばにあり、昔は、社の前で盆踊りをしていたとのことである。



7 名越山城守恒行

なごしましろのかみつねゆき

内堀の始まりは、鎌倉時代正応2年(1289年)名越尾張守系の武将名越山城守恒行が開いたと伝えられている。

この時代は、「打堀」と呼ばれていたが天正年間(1573~91年)毛利氏の所領となった際、「内堀」と改称された。



6 内堀の神代垣内落鉄穴跡

うつぼりのかじろがわち おちかんなど

昭和59年1月23日広島県の史跡として指定される。この遺跡は山土から砂鉄を採取する鉄穴作業(鉄穴流し)の採鉄洗場(さいてつあらいば)の跡である。



9 市原こぶし堂

いちはらこぶしどう

県道内堀備後八幡停車場線は、昔は道が狭く、まっすぐな道なのになぜか車がよく田んぼに落ちていた。

圃場整備の時、田んぼの中から五輪石が出てきて、これが車を呼んでいたのではないかということになり、有志が資金を出し合い、田んぼの中から出てきた五輪石を納めるため、このお堂を建築した。



8 妙楽寺と千鳥富士

みょうらくじとどりふじ

名越山城守の墓があるところから見た妙楽寺と千鳥富士。

千鳥富士の正式な名前は姑蘇山と言う。



11

川西下の松尾明神

かわにしものまつおみょうじん

その年の吉凶作を占う行事がある。
世量りさんとも呼ばれている。



10 市原の太ごぶし

いちらのおおごぶし

昭和56年8月24日東城町の天然記念物に指定となり、現在は庄原市の天然記念物である。大きさは胸高幹囲1.75メートル、樹高約15メートルで、もくれん科に属する落葉高木で、早春に葉に先立ち白色大形の花が咲く。



13

常夜灯

じょうやとう

現在は、竹森林道から所尾へ下る道との三叉路にあるが、昔はもう少し下がったところにあった。



12

聖神社

ひじりじんじや

祭神は国常立神（くにとこたちのかみ）であり、元龜元年（1501年）に勧請したと伝えられる。大正2年2月2日神社整備の理由で天照真良建雄神社に合祀されたが、昭和26年3月15日に分離独立し、現在地に社殿を再建した。祭りは11月8日である。

